

大阪・関西万博応援マガジン

EXPOST

Oct.
2024
VOL. 06
TAKE FREEEXPOST [エキスポスト]
EXPO(万博)+POST(新聞)の造語TEAM
EXPO
2025
いどもう、みらいに。
共創チャレンジ

Z世代「万博のワクワク感伝えたい」



関大万博部の学生たちは9月上旬、「電力館 可能性のタマゴたち」(右側のドーム状の建物)の建設現場を訪れ、スタッフから話を聞いた。左後方は大阪・関西万博のシンボル・大屋根リング=大阪・夢洲

関西の大学生ら
様々な企画で

「Z世代」と呼ばれる若者たちが、開幕まで半年に迫った2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)を盛り上げようと様々な企画を練っている。万博に出展するパビリオンと一緒にイベントを考えたり、世界中の学生たちとオンラインで合奏するコンサートを計画したり…。それぞれの思いを胸に、万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」に挑もうとしている。

「Z世代らしいイベントを考えてください」。夏休み中の8月、関西大学千里山キャンパスで、万博に「電力館 可能性のタマゴたち」を出展する電気事業連合会がワークショップを開いた。参加したのは「関大万博部」の部員9人。万博会期中、屋外ステージで開催するイベントのアイデアを出してもらおうのが狙いだ。

関大万博部は23年に発足。約170人の部員は「万博のワクワク感を伝えたい!」と、絵文字を使って海外の人と交流を深めたり、防災意識向上のため賞味期限が迫った非常食でアレンジ料理を創作したりする8つのプロジェクトに分かれて活動している。

大阪大学では学生団体「a-tune(ええちゅーん)」が、阪大発のベンチャー企業が開発した電子楽器を使って万博を舞台に世界中の学生たちとオンラインで合奏することを目指している。「音楽」という世界共通のコミュニケーションツールで、言語の違いから関わりを持てなかった人同士をつなげるのが目標だ。

10月19日には「若者たちの万博にかける想い」がテーマのシンポジウムと演奏会を阪大で開く。

大阪スクールオブミュージック専門学校(OSM)の学生たちは2025年6月、万博会場のEXPOホール「シャインハット」で白血病をテーマにしたミュージカルを公演。立命館大学の万博学生委員会「おおきに」は今年7月、万博のテーマ事業プロデューサーの一人、中島さち子さんとの意見交換会を開いた。大阪公立大学や阪大、奈良女子大学の学生たちは万博をきっかけに関西の活性化を目指そうと、大学の枠を超えて「学生団体くみひも」というグループを結成した。

目標を大きく上回る約5万5000人の応募があった万博のボランティアも年代別で最も多いのは10代の23.6%。20代と合わせると4割を占めたという。

万博を主催する日本国際博覧会協会は8月、多くの大学生に万博のイベントなどに参加してもらおうため、大

阪府内40大学でつくる「大学コンソーシアム大阪」と協定を締結。大学側は万博での活動を学業の単位に認めるなど教育や研究への活用を検討する。

万博での経験が若者たちの成長をどう促すだろうか。誘致段階から大阪・関西万博に関わってきた橋爪紳也・大阪公立大学研究推進機構特別教授は「博覧会は開くのが目的ではなく、手段にすぎない。若い人たちには万博を世界で活躍するきっかけにしたい」と話している。→2面と4・5面に関連記事



シンガポール館のマスコット、マーリーとミャクミャク(シンガポール政府観光局提供) →3面に記事

■「モンハン」をARで体験

大阪・関西万博の大阪ヘルスケアパビリオンに、カプコンが人気ゲーム「モンスターハンター」の体験型コンテンツを出展する。来館者は拡張現実（AR）対応グラスを着用し、360度映像や立体音響、床振動を通じてモンハンの世界に没入できるという。コンテンツ名は「モンスターハンター ブリッジ」=イメージ（同社提供）。モンハンのキャラクターやモンスターと触れ合うことをコンセプトにしており、対象年齢は7歳以上。



■「火星の石」を万博の目玉に

経済産業省は、大阪・関西万博の目玉の一つとして「火星の石」を展示すると発表した。2000年に日本の南極観測隊が昭和基地近くで採取した火星由来の隕石（いんせき）で、ラグビーボールほどの大きさがある。火星に水があったことを示す貴重な資料とされ、一般公開するのは初めて。薄片状に加工した隕石のかけらも並べ、来館者が触れられるようにするという。

■住友館は別子銅山の山イメージ

住友グループは、大阪・関西万博に出展する住友館の概要を発表した。グループゆかりの地である別子銅山（愛媛県新居浜市）の山々をイメージした建物で、屋根と外壁に別子銅山の「住友の森」から切り出したヒノキの合板を活用する。万博会期中、小学生らにヒノキの苗をポットに植えてもらい、閉幕後は住友の森に移すという。

■ガンダムの実物大模型展示

バンダイナムコホールディングスは、大阪・関西万博に出展するパビリオン「GUNDAM NEXT FUTURE PAVILION」に、人気アニメ「機動戦士ガンダム」の実物大模型を展示すると発表した。横浜市で今年3月末まで展示されていたガンダム像の部材を再活用する。片膝をつき右腕を上げたポーズで、高さは約16メートル。実物大のガンダム像は国内では東京都と福岡市の2カ所で展示されているが、関西では初めて。

■Adoさん、万博開幕日にライブ

日本国際博覧会協会は、大阪・関西万博の開幕日（2025年4月13日）に人気歌手Ado（アド）さんのライブを会場内で開催すると発表した。ライブが開かれるのは屋外催事場のEXPOアリーナ「Matsuri」で定員は最大1万6千人。イベントの詳細は追って公表するという。Adoさんは「うっせえわ」「唱（しょう）」などのヒット曲があり、顔出しをしない独特のパフォーマンスで知られる。



キャラクターもタマゴ
⑤電力館のキャラクターの「可能性のタマゴ」（電気事業連合会提供）
⑥様々な色に光ったり、ふるえたりするタマゴ型デバイス

タマゴ型した「電力館 可能性のタマゴたち」 タマゴ型端末で未来のエネルギー体験

大手電力会社でつくる電気事業連合会は、大阪・関西万博に出展するパビリオン「電力館 可能性のタマゴたち」の体験概要を公表した。来館者はタマゴ型の専用デバイスを首に下げて館内を回り、様々なエネルギーの可能性について楽しく学ぶことのできるパビリオンになるという。

テーマは「エネルギーの可能性で未来を切り開き、いのち輝く社会の実現へ」。展示では「夢のエネルギー」といわれる核融合や電源コードを使わずに電気を供給する無線給電といった最新のエネルギー技術を紹介する。

デバイスは直径約10センチ、高さ約13センチで、展示と連動して様々な色に光ったり、ふるえたりする。来館者は入館時に好みの色のデバイスを選ぶ。

例えば核融合では、天井から卓上に投影された光る玉を手で寄せ集めるとデバイスが発光する。原子核同士が融合して膨大なエネルギーを生み出す核融合の原理を表わしているという。無線給電は、シューティングゲームのように離れたところから画面に映し出される自動車などを動かす。

展示の最後には映像や模型を使って最

新のエネルギーを詳しく紹介する。

発表会で電事連大阪・関西万博推進室の岡田康伸室長（同館館長）は「ゲーム性のある展示で、とくに未来を担う子供たちにわくわく、ドキドキしながら様々なエネルギーについて知ってもらいたい」と語った。

パビリオンはタマゴが地面に半分埋まったような楕円形のドームで、外殻に様々な形の平面が組み合わせた「ポロノイ構造」を採用。外郭は天候や時間帯によって見え方が変化するという。パビリオン出入口の近くには屋外ステージが設けられる。

ハロウィン・フェスを開催 起源のアイランド、会期中に

大阪・関西万博のアイランド館は万博会期中の2025年10月上旬、ハロウィン・フェスティバルを開催する。日本でも若者の人気イベントとして定着したハロウィンだが、その起源はアイランド。首都・ダブリンで毎年、ハロウィンの時期に開催され、観光客らでにぎわう「ブラム・ストーカー・フェスティバル」がイベントに協力する。

ハロウィンの起源は2000年以上前、アイランドなどに住んでいた古代ケルト人の祭礼「サウイン」とされる。サウインは「夏の終わり」を意味し、秋の収穫を祝うとともに悪霊を追い払う宗教的な行事として行われていた。人間だとバラ、悪霊にさらわれないようにするため、不気味な仮装をしたという。ハロウィンの伝統はアイランドからの移民によってアメリカに伝えられ、その後、日本など世界各地に広まったとされる。

ブラム・ストーカー・フェスティバルは、小説「ドラキュラ」の作者でダブリン出身のブラム・ストーカー（1847～1912）を記

念したイベントで、ダブリン市議会の主催で4日間にわたって開催される。パレードのほか、音楽イベントや演劇ショーが行われ、2023年には6万7000人以上が参加した。

万博では、同フェスティバルをプロデュースしているマクナス社などが協力する。ただ、万博の会期は25年10月13日まで。ハロウィンの31日までに終わってしまうため、万博では10月上旬に開催する

という。

アイランド館は「トリスケル」という、3つの渦巻きを組み合わせたアイランドの伝統的な模様をモチーフにしたパビリオンで、建物には同国産の木材を使用する。

テーマは「創造性が人々をつなぐ」。展示エリアは3つに分かれており、アイランドの歴史や文化、日本とのつながりなどを紹介。音楽家やダンサーによる公演を毎日行い、来館者も一緒に楽しめるようにするという。ブライアン・オブライアン政府代表は「アイランドのベストなものを紹介できるパビリオンになる」と話している。



アイランド館の完成予想図（アイランド外務省提供）

レネ、イタリアちゃん、サーキュラー… 参加国が「ミャクミャクの友達」を次々発表

大阪・関西万博の参加各国がパビリオンのマスコットキャラクターを次々と発表している。SNSでは「公式キャラクターのミャクミャクに友達できた」などと大きな話題になっており、キャラクター大国の日本で開催される万博らしい現象といえそうだ。

今年5月15日、大阪市内で開かれたチェコのパビリオン発表会に登場したのが「レネ（René）」。黄緑の胴体にミャクミャクのような複数の目がついたキャラクターだ。「クリスタル渓谷にあるガラス窯で誕生した、遊び心にあふれるフレンドリーで愉快な生き物」という設定。チェコ政府は「ミャクミャクの親友になるキャラクター」（オンドジェイ・ソシュカ政府代表）として考案した。

イタリア館のマスコットは「イタリアちゃん（Italia-chan）」だ。頭に城壁のような冠をかぶり、イタリアの国旗柄をあしらった振り袖を着た女の子のキャラクター。世界的なポップアートブランド「tokidoki」の創設者、シモーネ・レーニョさんがデザインした。

ドイツ館の「サーキュラー（CIRCULAR）」はコロコロした姿が愛らしいマスコットで、日本の「カワイイ文化」にヒントを得て考案したという。館内ではサーキュラーの形をした



ミャクミャクと並ぶチェコ館のレネ。右はレネの名前の由来となったレネー・ロウビーチェックさん（いずれも大阪万博2025年チェコ政府代表事務局提供）



端末が来館者に貸し出され、日本語・英語・ドイツ語で展示を案内する予定だ。

タイ館もミャクミャクのように複数の目がある「プーム・ジャイ（BHUMI-JAI）」を発表。インドネシア館はコンクールを実施し、同国の伝統的なパティック（ろうけつ染め）の文様をモチーフにした「トゥムトゥム（TUMTUM）」

に決めた。ベルギー館も細胞のようなキャラクターを発表し、名前を公募している。

政府観光局が観光キャンペーンで使っているキャラクターを万博でも起用するのはシンガポールとオーストラリア。シンガポールの「マーリー（Merli）」=1面写真=はマーライオン、オーストラリアの「ルビー（Ruby）」はカンガルーと、いずれもそれぞれの国のシンボルをイメージしたキャラクターだ。

SNSではミャクミャクがレネやイタリアちゃんたちと遊ぶファンアートも次々投稿されている。こうした現象について、万博でデザインシステムのクリエイティブディレクターを務める引地耕太さんは「日本では古来、あらゆるものに「いのち」が宿ると考えられてきた。万博ではいろいろな「いのち」が可視化されているようで面白い」と指摘する。

キャラクターに秘められた歴史

実はレネやイタリアちゃんには秘められた歴史やバックグラウンドがある。

レネの名前はチェコの代表的なガラス作家、レネー・ロウビーチェックさん（1922～

2018）にちなむ。その代表作「ガラスの雲ー水、生命の源」は、冷戦下に起きた民主化運動「プラハの春」で花開いた自由な芸術活動を象徴する作品として、1970年大阪万博で当時のチェコスロバキア館に出展された。しかし、旧ソビエトの侵攻で民主化運動は弾圧され、当時の共産党政権は万博が閉幕したあと、「ガラスの雲」を国に戻すことを認めなかった。

その後、作品は鹿児島のホテルで展示されていたが、昨年、ようやく母国に戻った。チェコ政府は、ロウビーチェックさんに敬意を表してキャラクターにレネと名付けた。

Xで「可愛いすぎる」と評判のイタリアちゃんが頭にかぶっているのは、石積みで城壁と塔が環状になった王冠だ。この冠を戴いた女性像「イタリア・トゥッツタ」は昔からイタリアを擬人化したものとなっている。

作者のレーニョさんは日本のポップカルチャーに強く影響を受けたといい、イタリア館の公式サイトで「イタリアちゃんが（イタリアと日本の）文化の融合を象徴するシンボルになることを願います」と語っている。



イタリアちゃんと作者のシモーネ・レーニョさん（©TOKIDOKI,LLC. Designed by Simone Legno; Courtesy of Commissioner General for Italy Pavilion at Expo 2025 Osaka）

イタリア館にアトラス像 カラバッジョの代表作も

イタリア政府は、大阪・関西万博のイタリア館に2世紀の彫刻像「ファルネーゼのアトラス」=写真（©luigispina）=を展示すると発表した。ギリシャ神話の神「アトラス」が体を丸めて天球儀を肩に担ぐ力強い男性像で、日本では初めての公開となる。同館ではローマ教皇庁もイタリア絵画の巨匠カラバッジョ（1571～1610）の代表作「キリストの埋葬」を出展する予定で、美術ファンなら見逃せないパビリオンになりそうだ。

アトラス像は西暦150年ごろ作られた大理石の作品で高さ2メートル、重さ2トン。ヘレニズム時代の作品を複製したものとされ、ナポリ国立考古学博物館に所蔵されている。天球儀は天空における恒星などの位置を示した球体で、ファルネーゼのアトラスは現存する最古の天球儀といわれる。

イタリア館のテーマは「アートは命を再生する」。広場、劇場、庭園を備えたルネサンス期の理想都市を現代的に解釈したパ

ビリオンとなる。館内に映画やオペラを上演する劇場、屋上には迷路のあるイタリア式庭園が設けられる。アトラス像は半円形の広場の中央に設置される予定という。

ローマ教皇庁はイタリア政府とタイアップし、大阪・関西万博で初めてイタリア館の中に出展する。これに伴って、バチカン美術館が所蔵する「キリストの埋葬」を展示することを今年4月に発表している。

同作品は死を迎えたキリストと、嘆き悲しむ人々を劇的な構図によって描き、カラバッジョ円熟期の傑作のひとつとされる。2021年に国立新美術館で展示される予定だったが、新型コロナ禍の影響で輸送が困難となり、中止となったいきさつがある。

イタリア館は事前予約制になるという。





©Naomi Kawase/SUO, All Rights Reserved

河瀬直美さん 生まれ育った奈良を拠点に映画を創り続ける映画作家。1997年、劇場映画デビュー作「萌の朱雀」でカンヌ映画祭カメラドール(新人監督賞)を史上最年少受賞。2007年に「殯(もがりの)森」でカンヌ映画祭グランプリ(審査員特別大賞)に輝いた。2010年に「なら国際映画祭」を立ち上げ、後進の育成にも力を入れている。2020年東京五輪の公式映画総監督。

大阪・関西万博では「いのち輝く未来社会のデザイン」という万博のテーマを具体化するため、国内のトッププランナー 8人が企画した「シグネチャーパビリオン」が会場中央に設けられる。パビリオンでどんなことが体験でき、プロデューサーのどんな思いが

込められているのか。「いのちを守る」をテーマとする河瀬直美さん(映画作家)と「いのちを拡(ひろ)げる」がテーマの石黒浩さん(大阪大学大学院教授・ロボット学者)に関大万博部の部員たちが聞いた。

人はもっと理解しあえる 映画作家 河瀬直美さん

田井豊浩さん 監督がプロデューサーを務められる「Dialogue Theater -いのちのあかし-」は廃校となった小学校と中学校の木造校舎を移築して再利用したパビリオンです。中庭に移植されるイチョウの木は伐採される予定だったとお聞きしました。

新幹線1両くらいの高さがあるのでリスクがある。仕方なく伐採されることを受け入れようとしていたある日の朝、目覚めた瞬間にイチョウが「伐らないで」と言っている様な気がしたんです。私は「いのちを守る」というテーマをいただいたのだから、このイチョウのいのちを守りたい。そうしてスタッフ・ミーティングで「何か方法は無いの?」と訴えました。2023年11月に夢洲で河瀬館の地鎮祭をした時、ランドスケープ担当の造園家、齊藤太一君が「監

河瀬直美さん 移築した小学校の校舎横に植わっているイチョウで、跡地を更地にするため伐られる運命にありました。万博会場に持って行くことも考えたけど、

督、イチョウを伐らないことにしましょう」と、新しいプランを持ってきてくれたんです。想いを受け入れてくれたスタッフの心意気に感動して涙が溢れました。そして10月にこのイチョウを夢洲に移動します。

石田愛さん パビリオンでは対話が行われ、来館者も参加するそうですね。

河瀬さん ダイアログシアターと名前についている通り、河瀬館には映画館を作ります。そこでスクリーンにとある誰かが姿を現し、観客代表にとある誰かとリアルタイムで対話してもらいます。もちろん脚本はありません。一期一会の対話です。対話者は海外の人の場合もあります。万博会期中、そんな対話を2000回ほど行う予定です。

長谷川心愛さん なぜ対話ですか?

河瀬さん ロシアとウクライナの戦争が続いており、パレスチナでも戦闘が起きています。人類がコロナウイルスという共通の敵に立ち向かったのに、その直後に人間同士が殺(あや)めあうことになった。何でこんなことが起きているのか。コロナで国

境を閉鎖している間に「自分たちの国が正しい」というような思想が深まってしまったのか。それでも、違う考えの人を排除することではないはず。嫌なことを言われたら腹が立つけど、ひと呼吸おいて「ああ言われたのは自分がこう言ったからか」と冷静に考えてみる。そうして暴力に訴えるのではなく、いい関係を構築できる方向に歩みを進められる。あなたの中に私がいいます。私の中にもあなたがあります。丁寧に対話を繰り返し、命を脅かすことがないように、自分の中に他者を存在させてみる。そうすれば、戦争をなくせなんでしょうか。そう考えたのがきっかけですね。

石田さん 対話者は一般から募集し、監督が自らレクチャーされるそうですね。

河瀬さん 対話って相手の心模様を想像しながら言葉を発し、お互いの理解を深めあうこと。普通の会話より時間も時間もかかります。レクチャーというよりは、一緒に対話を繰り返してみる。そうして話者の中にあるものを私は引き出すだけです。それは河瀬映画の創り方に似ているかもしれません。

長谷川さん テーマはあるんですか?

河瀬さん はい。クリエイティブチームが考えています。答えのないテーマがいいんじゃないかな。例えば「あなたがこれまでの人生でついた最大の嘘は何ですか?」というような。答えのないテーマの方が対話がどこに向かうか分からず、見ていておもしろいと思います。

田井さん 僕たちのような世代が対話でどんな影響を受けるか。興味があります。

河瀬さん ロシアの人とウクライナの人が対話する回があってもいい。ロシアにもいろいろな考えを持っている人がいるはず。54年前の大阪万博で岡本太郎さんは「太陽の塔」というメッセージを残してくれましたが、私たちが今回の対話をアーカイブにして未来の人に届けます。50年後の人に恥じることはないようなメッセージを届けられるといいなと思います。

河瀬館が対話者を募集中

「Dialogue Theater -いのちのあかし-」は現在、対話者を募集している。万博会期中に1日1〜3回、計7日間以上出演できることなどが応募要件。出演場所は万博会場が東京会場のどちらかで、出演者は書類選考後、オーディションによって決まる。出演者には謝礼と交通費が支給される。詳細や申し込みは公式サイト(QRコード)。



- 【電力館 可能性のタマゴたち】
小高悠輝さん(社会安全学部4年)
黒木望未さん(法学部1年)
寺田和真さん(法学部1年)
藤田美紀さん(社会学部1年)

- 【いのちの未来】
西山美里さん(環境都市工学部3年)
=関大万博部代表
坂井一貴さん(社会安全学部1年)

■関西大学取材担当者

- 【Dialogue Theater -いのちのあかし-】
田井豊浩さん(総合情報学部3年)
長谷川心愛さん(経済学部3年)
石田愛さん(社会学部1年)

万博で対話を深め、未来を考える 関大万博部がテーマ・プロデューサーに聞く

石黒浩さん 人とかかわる知能ロボットやアンドロイド研究の第一人者として知られる。大阪大学大学院基礎工学研究科教授。国際電気通信基礎技術研究所(ATR)石黒浩特別研究所客員所長(ATRフェロー)。2015年、文部科学大臣表彰とシェイク・ムハンマド・ビン・ラーシド・アール・マクトゥーム知識賞を受賞。20年、立石賞受賞。24年、市村学術賞功績賞受賞。



©FUTURE OF LIFE/EXPO2025



石黒浩教授(左)から話を聞く坂井一貴さん(中央)と西山美里さん。座っているのは石黒教授そっくりのロボット=大阪大学豊中キャンパス

人間はまだまだ進化する ロボット学者 石黒浩さん

坂井一貴さん 石黒先生がプロデューサーされる「いのちの未来」は、どんなシグネチャーパビリオンになるのでしょうか?

石黒浩さん 約30体のロボットと約20体のアンドロイドを使って50年後の未来を体験してもらいます。人間はこれまで科学技術によって能力を進化させてきました。これからも人工知能(AI)などの技術を発展させ、いのちの可能性を飛躍的に広げるのは間違いない。50年後、いのちはどこまで進化し、私たちの暮らしにどんな幸福をもたらしてくれるのか。3年前から企業の若手社員たちと住まい、街、健康、移動、仕事など様々な視点から考えてきました。そこから生まれたアイデアの一部を展示やパビリオン内の「未来シアター」で紹介します。

坂井さん 1000年後の未来のアンドロイドも展示されると聞いています。どんな姿に

なるのか、ちょっと想像が付きません。
石黒さん 今のロボットはまだ人間の道具ですが、いずれ両者は一つになると考えています。そんな人間とロボットが融合した世界はどうなるのかをデザイナーやアーティストたちと議論しています。それを1000年後の未来を象徴するアンドロイドとして展示します。アートの作品になりますが、具体的な姿はまだ秘密です。今言っちゃうと楽しみがなくなるでしょ(笑)。

西山美里さん 先生が担当される「いのちを拡げる」というテーマには、ただ量的に寿命を伸ばすだけではなく、限られたいのちの質を高めることも含まれると思います。人間には生きがいも大切ですね?

石黒さん 私も、多くの人が楽しく生きられる未来を作りたいと考えています。遠隔操作で動くアバター(ロボットやCGキャラク

ター)を使えば、障害のある人や高齢者も自由に活動できます。多くの差別は人間が肉体を持っているから生じるとしています。人間と技術が融合した新たないのちは肉体や環境の制約から解放された、より自由になって新たな可能性が生まれる。それがいのちを拡げるという意味でもあるわけです。

西山さん 働くことも変わりますか?
石黒さん 単純な作業はロボットやAIがやってくれるようになり、多くの人はクリエイティブな仕事にシフトしていくでしょう。未来は文化がもっと豊かになると信じています。

EXPOST編集部 AIが進化すると「人間は仕事を奪われる」という人もいます。

石黒さん そんな人は今すぐスマホを捨ててください(笑)。人間はこれまで新しい技術が出るたび、仕事が奪われることを心配しながら、それをしっかり受け入れ使いこなしてきました。人間はまだまだ進化の途中にあります。「今のままで十分だ」と思った瞬間に進化は止まってしまいます。

西山さん 石黒先生は極限まで自分を追い込んで、ものごとを考えられると聞きまして。その姿勢はすごいなと感じました。

石黒さん 性格でしょうね。「もっと新しいことを知りたい」と常に思っています。難しいことを考えず、ゆっくり生きるという生き方もあるが、僕にはそれができません。

西山さん 子供の時に1970年の大阪万博をみて、その影響を受け、将来の進路を決めた人もいらっしゃると思います。

石黒さん 僕はまだ小さかったので、覚えているのは「みどり館」(世界初の全天全周映像で話題になった民間パビリオン)くらいかな。でも、潜在的には大阪万博からいろいろな影響を受けていると思います。

坂井さん 「いのちの未来」を訪れた人に、どんなことを考えてもらいたいですか?

石黒さん 一人一人に未来について考えてもらいたいですね。未来は他人に作ってもらったり、神様にお願いしたりするものではない。未来は自分が責任を持って作っていかねばなりません。これだけ強大なテクノロジーを持つようになった人類には大きな責任もあります。そして皆さんのような若い人にはいくらか可能性もある。自分たちがどんな未来を作りたいのか、しっかりと考えてもらいたいです。

ポーランド館

1000近いイベント開き
大阪で存在感を示す政府代表
ヤツェク・トムチャクさん

「ポーランド館は参加国が自前で建設する「タイプA」のパビリオンですが、建設業者の選定が遅れていました。ようやく明日（8月8日）、起工式が行われます。今のお気持ちはどうですか？

「ポーランド人には困難があっても、決してあきらめないという不屈の精神があります。正直に言いますと、初期の準備段階には様々な問題がありました。でも、あきらめずに頑張った結果、それを乗り越えることができました。今は安心してます」

「どんな問題があったのですか？」

「ポーランドと日本は法律が異なり、日本には地震の問題もあります。このため、建設業者を見つけるのに時間がかかったわけです。しかし、私たちはパビリオンの当初のデザインをあきらめるつもりはありませんでした。ようやく6月に竣工期限と品質を保証してくれるコンソーシアム（共同事業体）と建設契約を結ぶことができました。開幕には間に合うと確信しています」

「部材や外壁などを会場外で制作することで工事の効率化を図ると聞いています。どんなパビリオンになりますか？」

「パビリオンの面積は約1000平方メートル。建物は螺旋（らせん）状になっており、

ポーランド人の創造性と革新性が波のように世界に広がっていることを表しています。螺旋の中央にコンサートホールを設けます。ファサード（外壁）には「木組み工法」を使います。これはポーランドと日本の伝統建築をオマージュしたものです」

ショパンのアニメ

「展示内容についても教えてください。テーマは「ポーランド。未来を切り拓く遺産」で、わが国の文化の独自性や経済・科学の可能性、観光地としての魅力、そして何よりもポーランド人の創造力をお見せしたいと思います。専門家のチームが現在、急ピッチで展示の準備を進めています。詳細はまだ明らかにできませんが、一つだけ紹介すると先日、音楽家のフレデリック・ショパンを主人公にした短編アニメーションの撮影が始まりました。制作を担当するのはブレイクスルー・フィルムズです」

「俳優が演じた実写映像をもとに油絵を描き、それをアニメーション化した「ゴッホ 最期の手紙」を手掛けたスタジオです。アカデミー賞などにノミネートされ、注目されました。万博会期中、音楽などのイベントも数多く開かれます。

Profile

Jacek Tomczak 1973年、ポーランド・ボズナン生まれ。98年、同国で最も古い大学の一つであるアダム・ミツキェヴィチ大学の法学部卒業。ボズナン市議会議員などを経て2005年から共和国下院（セイム）議員。23年12月、投資・貿易庁の開発・技術副大臣（國務長官）に任命された。



「日本人がポーランドと聞いて思い浮かべるのはショパンですよね。それで音楽のイベントをたくさん計画しています。館内のコンサートホールでは1日に3回、ピアノリサイタルを開きます。このほか、ポーランドから優れたミュージシャンやアーティストを呼んで、万博会場内や大阪市内などでもダンスや民族舞踊、スポーツといった様々なイベントを開催します」

「その数は1000近いそうですね。お勧めのイベントを教えてくださいませんか？」

「例えば、2025年5月3日の『ポーランド憲法記念日の祝賀』では国立民族合唱舞踊団『シロンスク』が来日公演します。ステージでは日本の舞踊団も加わり、伝統舞踊のポロネーズを披露します。ポーランドでは1791年5月3日に欧州初の憲法が制定されました。わが国の憲法記念日は日本と同じ日なのです。万博協会が主催する様々なテーマワークにも積極的に参加します」

「万博をきっかけに、日本との経済交流にも力を入れられていますね。」

「経済や貿易を担当する副大臣として、経済関係のイベントもお薦めしなければなりません。最も重要なのは5月20日の日本・

ポーランド輸出フォーラムと9月30日の日本・ポーランド投資フォーラムです。このほか、様々なプログラムを用意し、医療・製薬、IT、農業・食品、ゲームといった分野でわが国の可能性を紹介します。ポーランド経済に対する認知度を高め、日本との経済協力を強化することを目指しています」

創造の遺伝子

「万博はオリンピックと並ぶ平和の祭典ですが、残念ながら世界では今も戦争や紛争が起きています。とくにポーランドは隣国・ウクライナがロシアの侵攻を受け、皆さんの危機感も強いと思います。こんな時代に万博を開く意味は何でしょう？」

「万博は世界中の人が手を組んで、様々な問題の解決策を見つける場です。ウクライナが攻め込まれたのは前回のドバイ万博の開催中ですが、ポーランドはずっと隣国に手を差し伸べてきました。現在、約100万人のウクライナ人がポーランドに避難していますが、難民キャンプはなく、彼らは普通に働いたり、勉強したりして生活しています。その準備ができたことはポーランドの誇りです。われわれは歴史的に何度も戦争で苦しい目にあってきたので、困っている人々との連帯を重視しています。こうした価値観も万博を通じて世界の人々と共有したい。ポーランド人が脈々と受け継いできた『創造の遺伝子』が世界の予期せぬ変化にも柔軟に対応し、よりよい未来を創る力になることを発信していきます」

「パビリオンの起工式にあわせて万博会場近くのビル壁面に芸術家アレクサンドラ・チュジャクさんがデザインした壁画（ミューラル）も制作されました。万博に本当に力を入れられていますね。」

「ポーランドと日本には特別な絆があると思います。両国は何十年間にもわたって経済や文化で協力してきました。とくに25年はポーランドと日本が戦略的パートナーシップを結んで10年目です。万博はそれをさらに深めるチャンスです。大阪でポーランドの存在感を示したいと考えています」

（聞き手 EXPOST編集部）

サウジアラビア館

サウジの過去・現代・未来
「五感」で体験してもらう政府代表
アルマズヤッド・オスマンさん

「どんなパビリオンになりますか？」

「パビリオンには様々な形や大きさの建物が複数点在し、その間に曲がりくねった路地が通っています。サウジアラビアの伝統的な街並みをイメージしたものです。目玉の一つが「スーク」という市場です。ただ、スークは単なる商売の場所ではありません。コミュニティを育む空間です。知り合いに「最近、調子はどう？」と声をかけたり、新しい出会いがあったり…。日本の商店街にも似ていますね。来館者の皆さんには路地を散策しながら、新たな発見や出会いをしていただきたいと考えています」

「路地を進まないで、次に何ががあるのか分からない。ワクワクしますね。」

「建物にはそれぞれ展示テーマがあり、中に入るとサウジの過去・現代・未来をバーチャルツアーで体験できます。過去はアルウラの古代都市や世界最大のオアシス、アル・アハサの遺跡。いずれも世界遺産に登録されています。現代はゲノム研究や宇宙開発といった取り組み。未来は『NEOM』という、100%再生可能エネルギーで生活できる巨大なスマートシティを砂漠に建設するプロジェクト。サウジの伝統や文化を紹介するとともに、わが国が急速に変貌していることが分かる展示になります」

「パビリオンの建物も伝統的な中東の泥れんが造り風の外観です。」

「建物の屋上にソーラーパネルを設置し、雨水を再利用するなど、パビリオンはカーボンニュートラルを目指しています」

「イベントもたくさん開かれます。」

「中庭のステージなどで伝統舞踊や音楽、サウジ映画の特別上映、DJライブ、ファッションショーを毎日開催。会期中、700回を超えるイベントを計画しています。アートやクラフトも体験していただく。料理や香り、音楽など「五感」でサウジアラビアを感じてもらうパビリオンになります」

本場のサウジ料理

「われわれ日本人が知らなかったサウジアラビアを知ることができそうです。」

「お薦めはパビリオン内のレストランで食事を楽しむことです。実は日本には本格的なサウジアラビア料理のレストランはありません。サウジ風の料理を出すアラブ料理店

ならありますが、それはアメリカでカリフォルニアロールを食べて、日本の寿司を味わった気になるようなものです。そこで万博では本国から呼び寄せたシェフが常駐し、本場のサウジアラビア料理を提供します」

「どんなメニューがあるのですか？」

「例えば「サイヤディヤ」は揚げたり、焼いたりした魚介類に香辛料で炊き上げたご飯を添えた料理で、日本人の口に合うと思います。このほか、地方の伝統料理やデザートを提供します。香辛料の効いた料理ですが、辛くはありません。主食は米で、羊肉や鶏肉、牛肉も使います。ナツメヤシを使った料理だけで500種類以上あります。こんな食文化も知っていただきたい」

「サウジアラビアは2019年に観光ビザを解禁し、それ以来、外国人観光客の受け入れに熱心に取り組んでいますね。」

「30年までに年間1億人以上の観光客受け入れを目標にした国家戦略があります。このうち日本人は3万人で、観光に特化した事務所も日本に開設しました。日本人はサウジアラビアと聞くと砂漠を思い浮かべるでしょう。実は日本の6倍の面積があり、南には緑豊かな山が広がっています。1年中暑いのではなく、四季もあります。先ほど紹介した『NEOM』で建設されるトロヘナというリゾート地では29年に中東初の冬季アジア大会が開かれます。紅海は透明度の高いダイビングスポットです。万博をきっかけに、こんな観光地としてのサウジの魅力も知っていただきたいと思います」

「次回30年の万博が首都・リヤドで開かれることも決まりました。日本からもサウジを訪れる観光客は増えそうです。」

「大阪・関西万博で得られた成果をリヤド万博にうまくつなげたいですね」

「オスマンさんのお話を聞いているうち、本当にサウジに行きたくまりました。」

「サウジアラビアの文化は、おもてなしの文化で、日本と似ています。その象徴がコーヒー。お客さんが来るとまずコーヒーを出しますが、カップには四分の一ほどしか入れません。熱々のコーヒーを楽しんでもらうためです。お客さんが飲み干すと、すぐにコーヒーを注ぐ。お客さんが「もう結構です」というまでこれが続くのです。こんな、おもてなしの文化をぜひ体験してください」

Profile

Othman Almazayad 1986年、サウジアラビア・リヤド生まれ。2013年、東海大学政治経済学部経営学科卒業。15年、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修士課程修了。現在は東海大政治経済学部経営学科講師、慶應義塾大SFC研究所特任首席研究員を務める。



「万博では日本とサウジアラビアのビジネス交流にも力を入れられますね。」

「未来につながるビジネスの機会をつくるのも重要です。専用のミーティングルームを設け、企業関係者や投資家向けの説明会などを毎日開催する予定です」

新たなつながり

「万博には何を期待されますか？」

「わが国が日本で開かれる万博に参加するのは1970年大阪、2005年愛知に続いて3度目になります。愛知万博では参加国と地元自治体が交流するプログラムがあり、愛知県豊根村がサウジのホームタウンにな

りましたが、20年近くたった今も交流が続いています。私が07年に来日した時、初めてスキーを体験したのは豊根村でした。豊根村の皆さんにもサウジや、日本のわが家に来ていただいています。万博は人々とのつながりを構築できる機会です。新しいイノベーションを紹介するのも大切ですが、世界の人々に異なる文化を知ってもらい、理解を深めてもらう役割があると思います。大阪・関西万博でも両国の人々の間に新しいつながりが生まれ、新たなコミュニティが形成されることを期待しています」

（聞き手 真生印刷常務取締役・紀之定正一さん）



ポーランド館の完成予想図（©interplay+komy studio）



サウジアラビア館の完成予想図（©Ministry of Culture, Saudi Arabia）

続・この海外パビリオンに入りたい！



④ **スペイン館** 正面に青色の階段、入り口はオレンジ色の円形で、スペインを特徴する「海と太陽」を表現している。テーマは「黒潮」。持続可能な社会の実現に向けて海の資源を活用する技術や生態系の保護活動などを紹介する。館内には名物料理「タパス」などを楽しめるレストランも設ける。

@スペイン文化活動公社

⑤ **UAE(アラブ首長国連邦)館** 暑く乾燥したアラブ世界で文明の興隆に重要な役割を果たしてきたナツメヤシ。ガラス張りの建物の内部に、そのヤシの林をイメージした巨大な柱が何本も並ぶ。ヘルスケアや宇宙探査、持続可能な技術といったUAEの野心的な取り組みを紹介するという。

@UAEパビリオンEXPO2025



シンガポール館 「ドリーム・スフィア(夢の球体)」という名前がある、高さ17メートルの赤い球体。2万枚以上のリサイクルされたアルミの円盤が使われる。テーマは「ゆめ・つなぐ・みらい」。若手アーティストのインスタレーション作品などを通して同国の革新的取り組みを体験してもらうという。

@シンガポール政府観光局



スイス館 5つの球体と、それを覆うツル科の植物が特徴のパビリオン。空気膜で覆われた球体は1970年大阪万博のアメリカ館や富士グループ館も参考にしたといい、万博閉幕後、家具に加工される。入り口で来館者を出迎えるガラス製の「ハイジ」は自撮りスポットとして人気を集めそうだ。

@スイス連邦外務省 プレゼンス・スイス



バーレーン館 アラビア半島周辺を航海した伝統的な「ダウ船」からインスピレーションを得たパビリオン。レバノン出身のフランス人建築家リナ・ゴットメさんが設計した。万博閉幕後はリサイクルされる。展示ではバーレーンの海洋文化の歴史に焦点を当て、その豊かな自然資源などを紹介する。

@Lina Ghotmeh — Architecture



海外パビリオンの情報は、Xの「EXPOST」公式アカウントでも紹介しています。紙面に掲載できなかった写真のほか、動画もポストしていますので、ぜひご覧ください。

